

# woodplays Bossa

木の質感と経年変化を愉しむオーガニックな逸品



wood plays bossa Col.1



wood plays bossa Col.2

木の質感が美しいwoodplays Bossaは、ボサノヴァを始め、ブラジル音楽やカリブ音楽にも欠かせないアコースティック・ギターをモチーフに制作された、オーガニックで和やかなムードの大人のメガネだ。

フロントは一見したところ、シンプルなフルリム型のウッドフレームを思わせるが、内側にはナイロールのベースを施している。レンズを確実に保持する設計のため、矯正用としても優れており、メンテナンスもしやすい構造となっている。

テンプルも見た目はウッドだが、βチタン製の芯材を用いて適度な掛け心地とホールド感を実現。内側からの見た目にもこだわり、ウッドとメタルが程よく調和するデザインを取り入れている。メタル(チタン部品)とウッドを最適の状態を組み合わせるには非常にハイレベルな精度が要求されるが、woodplays Bossaでは職人とデザイナーが長年培ってきたノウハウと経験でこれをクリア。ヴィンテージのギターと同様、経年変化やエイジングも製品の個性として楽しめる、こだわりの逸品に仕上がった。

ウッド部分の材質は、風合いの異なる2種類をラインアップ。時間の経過とともに色合いが変わっていく阿根廷 緑檀は高級家具や調度品、数珠などにも使われる高級素材で、多量の樹脂と精油物質を含み、香木特有の気持ちの良い香りがある。硬く頑強で、経年変化によって増していく表面のつや、なめらかさが特長だ。一方の紅檀は高級家具や印鑑に加えて楽器などにも使われる木材。三味線棹の素材としても使われる高級銘木であり、やはり長く使っていくうちに醸し出される独特の風合いが心地よい。

アコースティック・ギターと同様、ウッドのメガネはその材質感がダイレクトに品質に影響する。とはいえ実用品である以上、ただ高品位な素材を使えば良い製品ができるわけではない。woodplays Bossaの最大の特長は、耐久性や機能性を最大限に追求しつつ、使う人に癒しをもたらすオーガニック感、エスニックを取り入れた高いデザイン性を実現したところ。それこそが、woodplays Bossaと、最高品質のアコースティック・ギターとの共通項なのだ。



# woodplays Glam Rock

ギターの流線美を再現した精緻なスタイル



wood plays glam rock Col.1



wood plays glam rock Col.2

グラム・ロックのスタイルを現代的に解釈したwoodplays Glam Rock。イメージを触発する大胆なルックスに、様々なイノベーションを駆使した機能美を盛り込んでいるのがグラム・ロックと共通するところだ。フロントは、一見チタン製のブローにも見えるデザインだが、実は前後のチタン板でウッドを挟み込む斬新な構造のコンビネーション。テンプルも同じくチタン板でウッドを挟み込むミルフィーユ構造を採用、角度によってチタンとウッドの割合が変化し、見るものを飽きさせない。

全体のモチーフとなっているのは、エレクトリック・ギターのシルエット。ストラトキャスター、テレキャスター、レス・ポール……といった名機種に共通する流線美をテンプルデザインに落とし込み、サイドのなめらかな妖艶なラインを構成。モダン形状もエレクトリック・ギターのネックを意識して片側のみビースマークを施すなど、マニアも納得のこだわりと美しさ、そしてアイウェアとしての精度の両立を、高いレベルで実現している。

またwoodplays Glam Rockシリーズでは、ウッド部分の素材の違い(紫光檀と紅檀)により、それぞれに趣のある2つのタイプをラインアップ。紫光檀は高級家具や指物、食器類、印鑑などにも使われる木材で、心材の色は赤褐色、濃褐色、黒色などがあり、これらが縞となって美しい模様を作る。加工後の仕上がりは、なめらかな光沢感があるのが特長だ。紅檀もやはり高級家具や印鑑、そして楽器にも採用されることが多い。日本では古くから三味線棹に使われるなど、高級銘木の一つとして認知されてきた木材だ。

さらに限定品として、楓(ストラトキャスター風とレス・ポール風の2種類)も用意。ギターの塗装職人が、ギター製作時と全く同じ手法で1本1本手塗りを施し、色もストラトキャスター'64サンバースト及びレス・ポールのチェリーサンバーストを再現したという贅沢な仕上がりとされている。どこまでもエレクトリック・ギターの本物感にこだわった、これまでになかったメガネが完成した。

